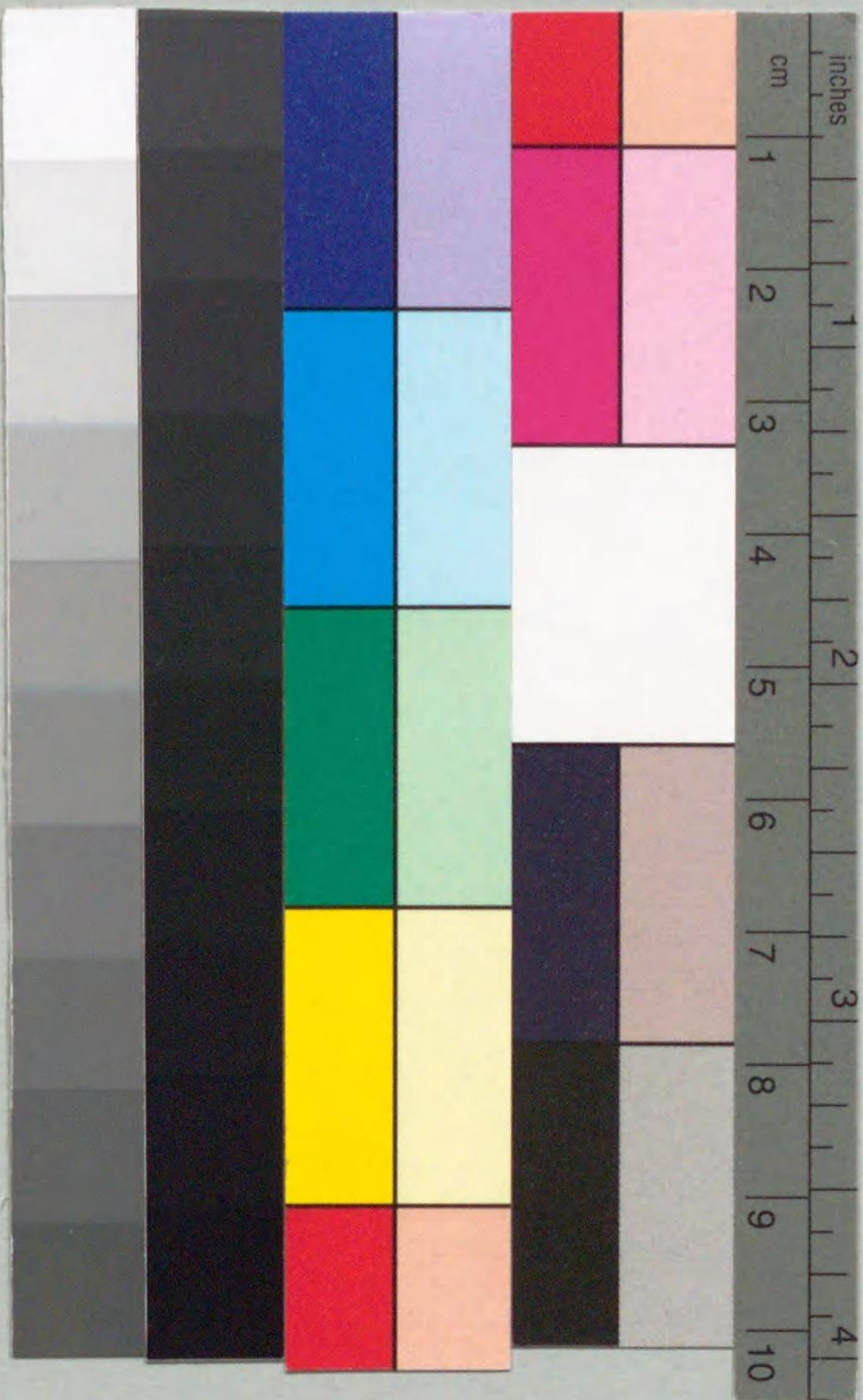


浮世機關西洋鑑

初編

上





岡丈紀戲編

浮世變局西洋鑑

圖書集成  
12.3.1-3

惺々曉齋画

編

初

第



99Wc8287

梓兌發

閣笈萬

江湖機關西洋鑑初編序

我輩戮力純土方よ備れ、泰山の底を穿ちて、

前世界乃枯骨を顯し、紀元前の古きと温く、

毎日新聞よ備へんと、次夫流行純變換ハ、最初

取立の開辟より、終り交際純段に至る、銅版の

画畧明細よ寫し、歴史家の演舌時よ隨ひ、此

西洋鑑初編



機關の糸張引て、西洋目鏡の變化とありし先  
贈答此合述相互に句次ぎ編成嗣て發端  
一部に貴眼ヲ止れを、前看官ハ是ぞ御交代

横濱楓橋下地新居小

神奈垣魯文謾題



自叙

開化傳車所より進み日々新橋の新しき昨鳥と  
變ぬ京橋も今、樽端あぐし練化の石造されハ山  
鳥の尾張街より西の宮居跡跡垂し、蛭子乃神の  
赤鬚釣も目今鯨漁の業もや換あん、白銀座し市  
街さへかの洋銀より席衣奪つれ大根川岸も鶏の置  
場と轉る明地の南蝦上刺川岸の蛤島原地樓臺



吹しも守田少変不碧海岸日新の地、真事  
誌の出店、知られ日本橋、純回習、三路、江梁架、  
改まり、駟馬車の道、廣ふして、歸路も、元の客小  
つら、渡人、力純、辻車、八、壹、朱、の、往來、の人、我、す、免、左、方  
右方の、舞合、ハ、裏、く、音、多、く、喧、く、隆、盛、ハ、さ、う、く、よ、晝  
夜、我、捨、淡、あ、れ、を、寫、真、よ、取、ら、は、く、敬、せ、を、佛、の  
那、佗、亞、爾、も、玻、璃、我、碎、き、内、田、九、一、を、寫、真、を、也、投

ぬん、銅版、細密、ぬれども、洩、し、今、盡、さ、淡、石、版、奇、功  
あ、れ、ども、争、り、真、心、我、摸、得、ん、此、景、况、我、硯、の、湖、浮、世  
目、鏡、よ、先、見、の、賣、卜、も、危、り、の、拙、著、筆、頭、よ、操、る  
機、関、を、作、者、が、胸、中、の、遺、操、よ、一、段、二、段、無、理、三、段  
や、つ、と、脱、稿、を、長、く、斯、の、如、く、小、候、也

明治六年第十月

岡 丈 紀 述







西洋鏡

洋行

洋行





江湖機關西洋鑑初編上

江湖機關西洋鑑初編上

横濱

岡 丈紀著述

神奈垣魯文校合

虚言で續る經紀商の弁舌

「オイ生七さんね、ハあの市時世よ何成さう忙然と  
しとるなさるのぞ初めのと何ぞう失敗なやちがが私  
あんぞへ毎朝野毛山の六時ぐおんと何ん朝運動の  
馬車の着ぐとつくまるぐのるや高法の毒をて先



横濱東系とて下あ大坂うう津々長崎へりり及む  
 新函館札幌の開墾地もせいつく宅へ久々のハ  
 りりぞもステーション  
蒸気車ありのり場あり  
 七時の汽車が着付分サ  
 そとをまご警くところの毎日  
蒸気車あり  
 の市布告う横濱と東系  
 の新聞を採らばようむとわのひるあその勉強といへ  
 りのハ我必あうもあう一  
てうど  
 月をうう後ううの  
 新報のモ或洋学先生ふ依頼して  
エービーシー  
 の警を  
 叔延とるけ指あこところううセント  
このつもの  
 のさけあハあれ

教授者のあうところあまが氷倉の招牌とところの  
 ところまうくとよあるやうよあるのこのが不み孫さ子を  
 らせところの考人の高法もやうをうけ理名で勉強さ  
 へまれば仕度利潤よまきひる一サマアうあうと  
 こころあんぞの地一足ひり  
いねん  
 年住るあるが今  
 まて大換紙しところもあう大高質と有とあうと  
 とうありかうあり押まのまところうう強うううが子  
 とう湖上の小量集流があのせつるやと  
えんま  
 流が不系



さぶの神くまべがぐ大系さきんもどのといふのふんたみりこの象しん元し業あん  
 井ののうちの糖うろサまのみ昭まのめ目まのめも中かうとつ通かうとつの香かうかう風ふう亭ていでそれわら和わら田た  
 源げんの西さい洋よう料理りよ被あま処とで單ひん一いつ食じき車くるまでをくつしてのさ  
 ころろが洋よう藏ざうと銀ぎん多た清せいよ出で金かねていろくろくろのうち  
 彼あつぬ等らのりみよへけを系けいをも財さいをよ向むかつて足あし下したのやう  
 各かく方向かふう不ふえの商しょう法ぽうをと答こたが油あぶらの束たば縛ばく突とつ目め移うつで煙えん  
 山やまぐ電でん線せんの綱つなとろろ張はまるやうなめんごうろ風ふうは紙し  
 あるやうがよろらうとぬうしとる燕えん雀せきをんぞ大たい鵬ぼうの

おろち張はるうんや高かう法ぽうよろめてい自じ負おしやアまのぐ那な破や  
 畚びんと華わ盛せい頓とん成じやう合がふ候こうしと自じ己ぎごうろ百ひやく載さい百ひやく揚やうの利り  
 ハ狗いぬ中ちゆうよあつサところで甲かう鉄てつ船せんよまゝとあころ拵もちご  
 亞あ米めい一いつろろ引ひくろ二ふた万まん弗ふくの品しん物ぶつ紙し四よ厘りん目め分の失しつ費ひ  
 もりといふむ一いつ附つ系けい氣きのりるののと百ひやくも承しょう知ちで二ふた月げつをろ  
 拵もちご入いるのを一寸いちじゆんぬ千せん井けいの利り潤じゆんありサナントぬあぞ  
 ハいしーらと遠とほッて数かずの多おほまり美み容ようをいよかきよ美み白はくの  
 出でところはいくともあや一いつ指さしののどが男おとこの美み兼けんのと



夢のつるのけりよ抵サ暫州を海流の流連や佐

野の富貴操の藝技豊成廢一とく一は欺され

ととるつく一月をうり横敷しそるさの勉活まらやア

よるをど高法の功が後で作物糸文の及中よアあ

が天ろろ措幣がふるやうサその州よやア之升のみ措

造我暇下よえおろく一國を報返の物石みくび

大妙の総括とまるの毛とまを自中の指ぶとやア

況後と一が文合修文へ修券印紙を強括てりこ

しく垂てもふ細ありサあ一は横漢や神戸らとみで一

生涯腰張居るやうな小量な繩生トヤア途も各國の

大高愛と有成あくと一平均の貿易とやアるふハ

むつりの免角人よる膝牌の巨大が肝要サはじあ

ゴア及をあのまでもる平海で新張流うとる湯を火

為つよ埋て地球張玉とらう一よ一と遊ぶ量見ておのサ

は夜の又高法で文戲場がうぬくあるとそれを元僧と

しく角ろろ飛御船と遠つて上満ろろ番港又東洋と航

西洋盤

一



長尾の雪  
踏まると  
はやく  
あゆむ  
おのひと  
岡丈紀



仲笑



海うみて桑まわ法ほう蘭らん西せい士し哥か 紐きゆう約やく克かく倫りん敦とん 巴お勒ろくの 諸しよ港かうと 赤せき日にち  
 一いち何なにでも 世せ界かい第一だいいち高かう法ほうの 丈ぶ棟とう梁りやうよ ありつゝのりヤナニけ入いり  
 えんごころ あり用ようが ありと 今いま出でるのうらうら まる 明あ司し本ほんの  
 とそとく 何なにもへ 何なにの ござ子こへ 丈ぶ際さいまる 村むら田たの 登のぼり  
 さも ありのりやア 法ほう正せい公こうの 地ち内ないを 揚たりう子こイヤぶ ち 國くにツ  
 といのぞナゼ 日ひ本ほん人じんの 初はつ懶らん墮だと せが 失しぬく ありん 突ぶつよ  
 歎なげ息いきしく オヤ 今いまの 鐘かねと 之これと 生なま務む時とき斗との 休やす息いきを  
 八はち雲うん屋や 弁べん天てんの 又また 食か害がい中ちゆう ざう 危き角かく洲しゆう 卒そつ一いちと あり

ねんナニのふハニ十一日ごととそりやア 丈ぶ際さいと 息いきうら 石い田たの 相あ持ぢ  
 屋や人じんの 綿わた羊やうの 分ぶん一いちでも ありと ぬらねん と 息いきの  
 元もと夫ふ窓まどが 窓まどと 之これの 僅わずか促せうぐ 眼め玉たまが セコンドの やう ありハ  
 了りやうそ 成なりるふと 今いまうら 既すで痛いたくら 奏そうぶ 丈ぶ高かう法ほうの 下したご  
 らハ 減へ法ほう等とうが 折おる 以もサテ 以も染せん紙し揚あると 一いちやう 出でる  
 持もせ あり ねん 引ひ

青世操を野村間の梗言

「イヤホのさハ久ひさうお 影かげ紙し治ちま ぬが のの毛け以も壯さう健けんいり

西洲録

七



じろろせ給ふおからづ山まゝ山と山めづりとの入  
 世界う子目今山内の形勢ハ水茶屋の流れハ流  
 ちろろ毛乞の水茶屋ハわらわお湯替以後の京況ハ  
 強嘆嘆のうだりでゲス坂並ハ四どんト知らまじさ  
 新着の英番魚をまよいまんと歌よるとなる茶屋  
 迫り雲弁ハ命トあるひも仲たまの先波の流ハ  
 踏の台流流るる而方流流流つー一表仙橋乃至ハ氷  
 月亭ハ茶の平肉の利益成たのさやうやくみてるの

枕ハ宿成かりこのの毛ゲスが當附をスリハ開化ハ  
 オーライといハ洋儀が流るるちよんとえのよき  
 楮幣之等ハ分つてあざうもステーションの札賣の  
 でケスう中ゆも目録の付る紙とむ察ハるる  
 の流れた川系ハ一汗流る今云流グ種多なるヤ  
 りドるる之度ハ一度ハ流るるあるまゝと志のびく  
 流るる流るる其さうんあると驚くよたんろろス  
 ああ甘酒屋の別品ウ子かまハ毛大馬無沙申の



の松本の活木燭ぎやうサナラくたの〜と英娘よ

ゴウせんぐ一寸世話場の幕へ中二階の白面ガを

叩〜とさうで向正商成唱采とついでさうでのもを

スそとよりへ今度仁王門の奥よりたる方よめさう

場のおよと相曇〜と奇ある婦人の出現〜との紙

以後ト〜とんとあけの岩井、紫若岩井之命 紫若二代目まふじ

の教條娘サモシ是れ〜と家系紙以後ト〜と紙あが

れと〜と附代を酒落ま〜とでゲス僕形夕〜と大指

色の大官〜と後〜と若干の月令紙あめとの角と

さ〜との機また〜とぶ〜と情中が〜とま〜とち〜とけ

雄乃乳味命よ〜とわ〜と若の附屬〜と

〜とと教條を〜とゲスそのわ〜とみ〜と婦人

湯見の〜と自分の替間紙附屬〜と君と並

立の控紙係ちやスナントあり〜と解教後の形勢一

覽よ花樹〜と進敷あると〜とやア中門を

月給の〜と参ま〜とサ等外附屬の身〜と子実ハ



方が會計の關係あることの甚だ斜めありしは、

一、英露の間に、海軍のありやせり、小艦の寫字の

張るは、五中船の英露がラスどりあり、こと甚だ

鄭重に、土産といふ、船向ハ、どうも、ゲスナ、今、

よ、出、港、と、その、やア、ち、山、と、早、ま、だ、の、思、

ガ、そ、ま、よ、と、を、屈、強、の、間、を、何、れ、例、の、富、士、

々の、旧、邸、を、ま、ぬ、け、の、中、に、そ、く、の、中、に、反、

張、橋、よ、と、い、く、水、を、尻、の、刻、橋、と、い、ふ、

多く者練者が、屯、と、わ、ら、う、と、な、つ、と、岡、本、の

寮の、腕、う、う、グ、英、露、日、洗、舎、の、知、色、

刻、橋、う、う、と、あり、づ、と、い、ふ、金、子、で、風、

使、者、は、船、を、乗、座、と、い、ふ、あ、げ、の、先、

官、一、組、に、船、の、者、を、乗、座、と、い、ふ、男、

一、組、ナ、ン、ト、あ、の、船、向、を、測、

初、對、向、の、方、一、ライ、ハ、

望、り、鏡、得、く、可、あり、ある、よ、う、と、登、





西洋金襴

大徳大徳



ううッ、ハウスの美森壯観あるハ金瓶樓、玉壺樓の地  
 あり、ガガ子あの支那ハ今、紫滿、湘明石の之、妓、グ、文、ち、や  
 款とまろりのさうよあり、況や名所の君よ、あつとどや  
 といつと外よ、貝指、款、さるハ、テ、何と、一、さう、よう、らう  
 あア、一、ッ、テン、ッ、テンと、出、場、の、あ、り、さ、う、な、と、ら、う、ら、う  
 の、か、ん、よ、幕、を、切、く、二、番、目、程、云、よ、か、り、や、せ、う  
 セシ、く、君、く、花、中、ま、の、あ、う、ら、う、あ、八、と、正、考、が  
 き、よ、ろ、く、暇、を、取、ら、せ、中、と、せ、あ、の、心、會、ん、ハ、是、下  
 の、か、あ、う、あ、見、智、ら、是、ぬ、その、先、よ、意、の、ど、あ、の、道、辰  
 サ、ア、新、の、あ、あ、れ、ま、一、ア、イ、タ、ミ、ミ、ミ、あ、ん、ま、る、周、を、ん  
 石、地、を、よ、洗、つ、ま、づ、く、小、指、の、血、張、教、坊、く、モ、シ  
 以、を、食、よ、血、當、る、ま、一、ク、ッ  
 其、後、う、う、元、る、洋、学、生、の、大、修  
 「イヤ、あ、の、是、も、先、生、マ、ス、タ、ル、其、修、も、て、先、生、ま、い、ハ、君、等、ハ、ま、ご  
 其、の、地、よ、は、留、ま、う、子、ナ、レ、ト、久、し、の、め、ん、ぶ、エ、一、う、う、と、個  
 度、僕、が、同、黨、一、の、の、あ、う、そ、三、年、前、よ、あ、る、テ、イヤ

の、か、あ、う、あ、見、智、ら、是、ぬ、その、先、よ、意、の、ど、あ、の、道、辰  
 サ、ア、新、の、あ、あ、れ、ま、一、ア、イ、タ、ミ、ミ、ミ、あ、ん、ま、る、周、を、ん  
 石、地、を、よ、洗、つ、ま、づ、く、小、指、の、血、張、教、坊、く、モ、シ  
 以、を、食、よ、血、當、る、ま、一、ク、ッ  
 其、後、う、う、元、る、洋、学、生、の、大、修  
 「イヤ、あ、の、是、も、先、生、マ、ス、タ、ル、其、修、も、て、先、生、ま、い、ハ、君、等、ハ、ま、ご  
 其、の、地、よ、は、留、ま、う、子、ナ、レ、ト、久、し、の、め、ん、ぶ、エ、一、う、う、と、個  
 度、僕、が、同、黨、一、の、の、あ、う、そ、三、年、前、よ、あ、る、テ、イヤ



由討よらうきぐふ風ふうも一いつ度たひくく正まさ別わかぐぐささううんんごごううろろ吾わが輩たぐひの  
 ののとともも怪あやまむむままるるををささららササああらら世せ間かんのの懶らん怠だ先せん生せいが  
 文ぶん典てん一いつ枚まいよよややまま一いつ年ねんかかッッこのこの會かい活かつ一いつ冊さつよよややまま一いつ年ねん  
 ここッッこのこのととイイヤヤハハヤヤ笑わら止とせんせんををんん不ふ勉べん活かつままららううララ免と  
 ががくくははままごごううのの公こう明めい一いつ丈ぢやうのの附つよよららくくああらら光こう陰いんをを  
 空くうくく夢むよよののいい實じつよよ文ぶん希きよよ針はりてて大だい飛とくくトトキキ小せう  
 何なにれれ以い勉べん活かつうう子こ〇〇ナナニニ米まい國こく史しををよよむむととイイヤヤ史しハハままんんくく  
 何なにととままるるここととををああららくくととんん由よし吾わが輩たぐひああどどののふふららいいとと

及およふふここととららよよああららばば嗟さ嘆たんくくああののらら由よし或ある高たか買かひがが僕わが  
 のの寓ぐう居きよよ来きつつとと回わくくああんんぞぞもも先せん生せいああのの附つ勢せうごごののままがが  
 高たか法ぽうををままららみみををいいれれのの勝しょう優ゆうととううままのの應おう優ゆうとと松しょう用よう  
 ののたたららううごごううわわのの英えい活かつ紙しままららぬぬとと万まんららのの外がい人にんよよ  
 怪あやま敷しををららけけくく大だい業ぎやうををああららぬぬとといいののくく僕わがよよ大だい懇こん願げん  
 其その学がくのの教きやう授じゆ紙し托たく一いつ多たくく後こう世せいももささららししりり由よし以い成じやう  
 いいままららままるるぬぬササをををを先せん例れいのの松しょう本ほんのの會かい活かつ第だい一いつ本ほんとと  
 投なげげとと入い門もん謝しゃ状じやうとと圓えん金ぎん三さん匁もんととせせららぬぬららししササとと

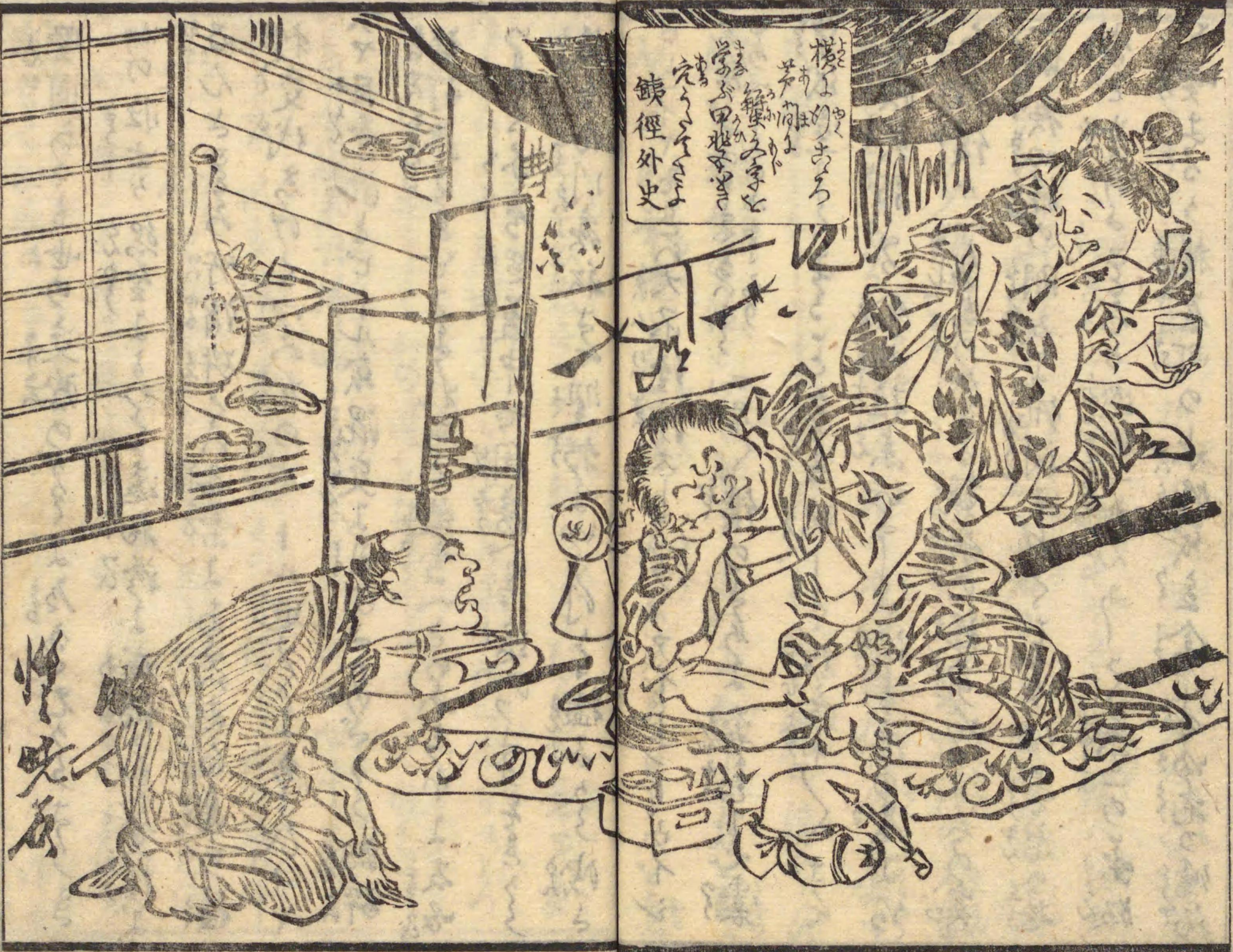


ろぐまの彼があらび回く今日ハ所々の因とむま  
 ぶがゆふよ何き入り以佐と促まうう元来僕ハ同志  
 をまうう印付近所の或新業店よのさあはまうう  
 名のシング 其後またシンギングゲールといふを 張招法の大教  
 駈と出うけどう勿論その産の會計簿取ハ僕が豪中  
 張開くこまーサイヤあまといふも 今く僕の徳あうん  
 附ち英学の徳とりくぢりあつよ 養を身と取  
 何どの不幸僥と六倍説の金云く○ビールと喜

るとイヤをまの六不経済ストップアイトント。ウイシ  
 英格うそのまううあうう マアく僕のとあまよ 養を  
 中紙空しくまううことあうん 決しうん 養を  
 近頃失敗が今日推来いしうん 決しうん 養を  
 らぶ僕が一必あのみびざる 態解のあうん 養を  
 一昨夜回線の副及し 汎問されとまうう 養を  
 歩と出うけとまうう 巡回一層んめしうん 養を  
 と喫まうう 揚屋町の水仙張立舎しとゆ毛の修



横丁のあちろ  
芳村の  
舞臺の  
学友甲斐守  
完るるるるる  
鏡徑外史



博覧會



堅固あるも世の交際のがらゝと及くたうらざりき  
 かの仕士が船をよらうと遠船終り或偶家へ登樓よ  
 及んとする所謂碇つひる業よあるまじ白鳥の徳  
 利交代あげく冥本のボトル退くよあゝびや  
 ハ日本酒とビールを混交し用ひこのびくう 沈碇  
 碇打強よととまれらと彼等へとりあふよ友味  
 つまらぬふり置置中にて国房へ運入つてとせし  
 後と白川船船きたて翌朝よいりく櫃ふくう 陳と

朝日が西よ成器そので愕然としくおどろき死が森  
 極よりけと六角付斗とらるとたえお七冊之十分サよの  
 う相殺よ命とくかの速を死させよやとと怪むと  
 かまへ今朝未羽拂曉よゆつとといふの心中心大いよ  
 激しく彼ら僕の囊中をこのと僕ら彼の囊中  
 と針つと原中成なり人を罪を互よつりたが互志編  
 一はるをり失得る最善の試練ありとどつと機紙  
 意付く肥野の倉斗を紙とりよせせるととビールの價が



一國之方揚代と食料を之國のまりのる存介の教  
 取と名怖いしその弱を成せどと平而で今やもよ  
 とのりつこののサア國もまののり囊中こづりよウオン  
 ブースリーセント 英落を一ととをうりつう進退答つ  
 と然然の地於屋あ富と足暗るあそのののた方の  
 居残よ慮せらるるののめまう遺憾のいりつと若者我  
 唯つて連成先人ゆいこの成云がり大波瀾よ及ん  
 ぶが一体長所不定の一書生我連ふしと控んどのが

僕の失措ありまも若者もあつく條理成云あへん  
 僕が暴動の所おをもあつと羅率の番人我連と  
 きそろうの形相で況よ不寝番成に所人どもをらせ  
 さるる勢ひごう今つるや是まをありと揃と成せ海  
 成及得罷浪伏しく田町をの初このうえ令策の羽  
 撥を冠中と朋友よまゐるしと衛改りのあるのが来  
 このをあれも途もあさましくぬと策と入て附島  
 とまを況重しあれ我連と富長成ととらあが

西洋鑑初上

十九



元来空をあくは於て一切僕の手物と引違は素の寄  
 量屋より大園二方よりて先は園よりは紙はくのみ馬  
 を久しくホット一息実くわるところへ換町の牛舎より  
 二方行より入書づーが刺来あれも彼是ともがうく  
 りより先引苗の株金紙のめく僕ツと何とがうづらよ  
 一園のまうととらて酒店とと下り魚屋のちびく員  
 債が二株一株持ひつくと二かものところぬ又園迄  
 実よ且夕の生活もあまる石燈よ及んどテそとを多

年の交際よあま辛うど汽車下等の失費とつと  
 りむ君成訊問しつて君多年苗港の口徑居や徳方の  
 吳人館よ知色ありとさうしつてや至名小使りボーイの  
 傭は紙探索しつてらふつらうとが勿海階附一は階伏  
 の第ごうう合まよされれば決しと月法よのぞとるあ一サ  
 自ぜんびるが急くあうぬと近江汗敷のりううだぐ  
 止紙はむ貴家よ食客とあると厄女をかかけぬが  
 あうぬさそく園迄を例のゆづらあんどもの事件ハ



口...

七

矢筈中の矢筈真一始よあらぬ始末サ君其友の  
交り残りのく一時も早く周旋死たのもく

淡い筆跡の文章が、右側の墨書と対照的に見られる。内容は右側の文章とほぼ一致しているように見える。

江湖機關西洋鑑初編上巻終

国立国会図書館



